



## 後期学校評価アンケートの結果より（2）

前回に引き続いて、後期学校評価アンケート（保護者回答）からの分析と改善点をお知らせします。

### 【評価が高かった項目】

\*数字は「はい」を4点、「まあまあ」を3点、「あまり」を2点、「ぜんぜん」を1点としたときの全校児童の平均値

- ・学校は地域活性化に貢献(3.9) ・地域の資源を生かした教育(3.9) ・安心・安全(3.8)
- ・環境整備(3.8) ・情報発信(3.8)

### 【評価が前期より上がった項目】

- ・人の話を聞いている(2.8⇒3.2) ・家で読書をしている(2.3⇒2.6)
- ・掲示が整っている(3.5⇒3.8)

### 【評価が前期より下がった項目】

- ・宿題や家庭学習に取り組んでいる(3.2⇒2.9) ・外遊びをしている(3.3⇒2.7)



### 【分析・改善】

・地域との連携については、前期に引き続いてよい評価をいただいています。今後も島中小学校では、地域のお力を借りながら共に子どもたちの育成に取り組んでいきます。また、学校・地域・保護者の3者が連携することで、地域を盛り上げ活性化することも可能ではないかと考えます。その一助として「情報発信」があります。学校でイベント等のある場合は、地域の皆様に回覧するチラシでお知らせしています。子どもや孫がいる・いないに関わらず、お気軽に学校に来ていただきたいと思っています。

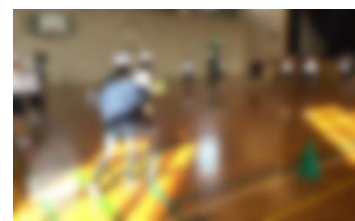
・放課後の子どもたちの時間の使い方について心配されている保護者が多いと感じています。「ゲームの時間を制限している」「宿題や手伝い、ゲームの時間をポイント制にして管理している」等、ご家庭でも大変苦労されているようです。学校では、2学期に、iPadを通じての宿題の確認の仕方を保護者に伝えたり、「メディアオフデー」を新たに設けたりしています。「メディアオフデー」の読書の宿題はほぼ全員の児童が真剣に取り組んでいます。中には話題の良書を読んでいる児童もいます。月に2回ではありますが、本を手取る大切な機会を今後も継続させていきたいと思えます。

・全国的にも、子どもたちの体力の低下が叫ばれています。スポーツクラブに入っている児童は別として、日常的に運動の習慣がない児童もいるようです。（本校の児童は「投力」「柔軟性」に課題があり。「持久力」は比較的高い。）家庭でも、親子でストレッチを行ったり、休日にふれあいも兼ねてキャッチボールやバドミントンなどを行ったりしてみてもいいでしょうか。

ご家庭で課題だと感じていることは、同様に学校での課題でもあります。また、地域の力をお借りして解決できることもあると感じます。共に一緒に考えられるパートナーとして今後ともよろしくお願いいたします。



メディアオフデーの読書記録



子どもは本来、本も運動も好き！ 機会をどんどんつくりたい！！

# 自分で考え、命を守る！ 火災 避難訓練

2月2日、火災避難訓練を行いました。とっさの判断力と行動力を身につけるため、訓練は、日時も場面想定も事前に知らせずに行いました。児童は「2年教室から出火」の放送にもあわてず、避難経路は非常階段を選択して避難をしました。煙を吸い込まないようにハンカチを口にあてる児童もいました。避難後は、全校で「火遊び」が元で火事をおこしてしまいそうになる小学生の話DVDで視聴しました。視聴後は、「火遊びは絶対いけない」「友達がやっていたら注意しなくてはいけない」等、自分なりの考えを述べることができました。



「何が大事か」自分で考え、発表する

## 4月が待ち遠しい 1日入学



5年生をお手本に警察官の方から横断歩道の渡り方を学ぶ

4月から中学生！不安はあるけど、4人いれば心強い！



立春を過ぎた2月6日、周防大島中学校で新入生の1日入学が行われました。6年生が、4月から同じクラスになる仲間と一緒に授業を受けたり、中学校生活についての話を聞いたりしました。また、島中小学校でも、2月9日、来年度入学予定の3名を迎えて1日入学を行いました。小学校では、給食の試食や2年生との交流を行いました。

どちらも、4月から始まる新しい学校生活に緊張感をのぞかせながらも、「期待」と「希望」でいっぱい様子でした。

特に、本年度、島中小学校では1年生の入学がなく、寂しい思いをしていましたが、来年度3名の入学生がいるということで、在校生・教職員ともに心が浮き立っています。3名の入学を心からお待ちしています。

## プログラミングを学ぼう！ プログラミングで学ぼう！

2月7日、5・6年生が、大島商船高等専門学校情報工学科の先生方によるプログラミングの出前授業を受けました。まず、我々の生活の中にはあらゆるところにコンピュータが内蔵されており、それを動かすのがプログラミングで、その仕組みを知ることがコンピュータ社会を主体的に生きることに繋がることを教わりました。実際のプログラミングの場面では「Codey」というロボットをビジュアルプログラミング言語で動かしたり、制御したりしました。児童達は、プログラミングにすぐに慣れて、自分の考えたとおりにロボットが動いたときには歓声をあげ、うまくいかなかったときには、プログラムの修正を根気強く行っていました。コンピュータの活用は、将来児童がどんな職業に就くときにも重要となる力です。その点で、「将来が楽しみな子ども達ですね。」と商船の先生方から太鼓判をいただきました。

